

くまざさ



曇り後ち晴 それとも 雨か

湖陵同窓会長 久本 甫

一昨年から去年にかけて厚生省と大蔵省の役人がテレビや新聞で派手にお立ち台に上がりました。大石のキツチンとシヤブシヤブで、私なんか貧乏人のせいだ調理台の天板が大理石なら食器が割れやしないかなんてケチな心配をしてしまいます。シヤブシヤブも高いのは分かるんですが、特別会員でないと喰わしてもらえないなんて、全然知らなかったです。

云っても当たったためしがないのと同じって云うわけ。

今年は湖陵と我が同窓会が悪いイメージで新聞紙上に登場してしまいました。長い歴史に汚点を残したと云えばそれまでですが、長い間には色々な事もあるとし、前向きに考えなければ後ばかり振り返っていたんじゃないかと、又同窓会館の件に就きましても、総会で決まったことと申しまして

も年一回の総会には四百人程しか集まりません。卒業生全体から見れば四十分の一です。卒業生の総意とは云えません。がです。会館は立派に出来上りました。ご覧になった方は屹度その素晴らしさに感動し金字塔とも思える作品を残した事に、卒業生としての誇りを感じることでしよう。それが逆に湖陵同窓生の腑甲斐なさと恥さらしの記念碑にだけはしたくないと思うのは私一人だけではない事と思います。

バブルが弾けて以来日本中景気が悪いのは誰の目にも分かりますが、昨年から今年にかけての北海道経済の凋落ぶりには驚きを感じます。景気の良い職種も便乗して悪いと云ってるかも知れぬ。ほんの二、三年前までは大手の銀行や証券会社がつぶれるなんて経済音痴の私には考えられませんでした。とくに拓銀がつぶれるなんて。つまり「世の中一寸先は闇」と云うやつです。経済評論家や学者先生がテレビで云っている予測だって皆んなバラバラでピタッと当てる人なんて見たことない。丁度プロ野球の評論家と称する元選手が「今年の順位はこんなところ」なんて

知人がこんな話をしてくれました。長年かけてコレクションして来た絵画を土地と館を自前で仕立て、一般に開放したいと。男の浪

漫を感じる話でした。今年も亦、総会のビールはほろ苦いです。来年こそは旨いビールを飲んで新会長にバトンタッチをしたいものです。



新たな出発を期して

学校長 太田 守男

「不易と流行」という言葉がありますが、学校教育の中にあつては、どんなに世の中が変わろうとも決して変わらない、また、変えてはならない教育の理念があります。同様に、それぞれの学校では、それぞれのやり方がありますが、本校には本校独自のやり方もあります。時代の変化、世の中の価値観の変化に相応してやり方を変えねばならないこともあります。しかしいいものは残っていきます。それが伝統であり、その中には色や形に表わすことのできない、また何人にも犯されない強い精神が内在しており、それが伝統を支えているだろうと思います。

私たちは湖陵にあるよき伝統を守りながら、時代の変化に取り残されることなく、道東の雄としての湖陵の存在を誇示していくことが大切だと考えております。今回の不祥事をよき教訓として新たな出発を誓います。

今年三月に本校職員の一人が、生徒の写真撮影、アルバム作成に関わって、業者から賄賂を受け取るという事件を引き起こしました。学校にあつては、前代未聞の不祥事でありました。

同窓生の皆様方には大変苦々しい思いをおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。このような不名誉な事件を二度と起こさぬよう学校体制を整え、信頼の回復にむけて職員一丸となつて取り組んでおります。



十勝支部の近況

十勝の同窓会活動は、年一回開催の釧女・江南同窓会との合同同窓交礼会（今年は第三六回）のほか、ここ数年はゴルフ大会を年二回行っており、今年も、初めて江南高校にも参加を呼びかけ、湖陵・江南ゴルフ大会を定着させようと思っております。湖陵同窓会員数は約一六〇名程で、人数にほぼ変わりはありませんが、交礼会の参加者は、いつも乍ら若い年次の方の参加が少なく、集まる顔ぶれが固定化し、ここにも、年々高齢化現象の傾向があるようです。



私が会長を引き継いでから一八年経過し、今年の総会で更に二年、丁度二十世紀末までお勤めするこ

とになります。幹事の皆さんも同様で、殆んど同じメンバーです。この先どうなっていくのか、老人支配の悪弊が出なければ良いのだがと先行きが一寸心配です。

合同交礼会に先立ち、十二時半より湖陵十勝支部の総会を行い、一年の総括を行い、このあと本部より御臨席を頂いた久本会長より、釧路の懐かしい近況を拝聴し、また同窓会館建設資金の経過について詳しい御報告を頂きました。同窓会館建設資金不足は、湖陵同窓生として誠に情けなく、恥ずかしい思いがします。本部の関係者のつらい立場を考えると、同窓生はもっと積極的に支援しなければならぬのではないかと思います。この紙面をお借りして、全国の同窓の方に力強い協力をお願い申し上げます。

総会終了後記念撮影、そして江南との合同同窓交礼会の運びと進行します。交礼会は、私の知る限りワンパターンで行っておりますが、逆にこの型が過度の緊張感と安心感、落ち着きがあつて、程よくおさまつてるのかも知れません。

今年三月十五日（日）に、例会の如く午後一時より帯広グランドホテルで両校同窓生併せて六十名程が参加し、両校校歌（江南は釧女の校歌もあり、全部で三曲）斉唱のあと、両校同窓会長の挨拶が続き、これもパターン化している出席最高年齢の方（今年釧中一四期の高田清次郎氏）の乾杯の音頭で開宴致しました。このあと、例年ならば、札幌在住の井上幸夫先生がお見えになって、両校ゆかりの話で得意な井上節でお聴き出来る筈でしたが、病氣回復直後の事で出席を見合わせられたのは、とても残念でした。過ぐる三十周年記念大会のときは、釧路・札幌から、多数の同窓教師先生を初め同窓会本部役員の方々のご出席を頂きました事を、改めて厚くお礼申し上げます。



地元十勝のロゼ・ワインで乾杯のあと、両校同窓生の久しぶりの交歓が賑やかに始まり、余興の部のトップを切った真鍋先輩（釧中二七期による大マジック・ショー）で会場は最高に盛り上がり、カラオケの部では途中から、いちの間にか湖陵・江南対抗戦の様相となり、いづれおとらぬ夫々のノド自慢が続出し、時間制限を行う程の賑いでした。



交礼会の締めは、これもパターン化している出席者中江南の最年少の方の発声による万歳三唱でめでたく幕となりました。

このあと二次会はほぼ全員参加し、応援歌にカラオケと体力のおとろえる頃(午後七時)まで賑やかな交礼会を行い、一年後の再会を約して散会となりました。

「住みよい十勝、一度はおいで。みんながあなたを待っています」

湖陵一期

帯広支部会長 河崎 弘



当番期紹介

湖陵二十六期会代表 佐々木 信裕



平成十年度の湖陵同窓会総会の当番期を代表して26期の紹介をさせていただきます。

我々26期が生まれた昭和30年と31年は、戦後の混乱がようやく落ち着き日本経済の高度成長がスタートしたところで、釧路の人口も12万人あまりでした。ちなみに、我々が高校を卒業した翌年の昭和50年に、初めて釧路市の人口が20万人を越えました。

湖陵高校には、昭和46年から49年までの三年間お世話になりましたが、昭和40年代の後半になると、全国の大学で吹き荒れていた学園紛争はようやく下火となり、各大学も平常に戻っていました。そういう意味での不安はなくなり落ち着いた高校生活を送ることができました。

高校時代は、お決まりの汗くさ

いクラブの部室やほろ苦い恋の思いのほかに、夜遅くまで熱中した文化祭の行灯制作やキャンプファイヤー、まだ広い砂浜だった千代の浦の海岸での屋外授業など様々な思い出があり、中途退学や登校拒否などは全く関係の無い、自由で楽しい高校生活を送ることができました。今思えば、寛大に生徒に接して下さっていた先生方に感謝するばかりです。

そんな我々も四十を向かえ、同窓会総会の当番期を向かえたわけですが、思い返せば、10年前の当番期で湖陵16期の圧倒的な結束力と行動力を見せ付けられ、3く4人しか同窓会に集まらない自分たちの期が、次の中心当番期をこなせるか不安を感じたものです。

実は、我々の26期は、ほとんど地元在住者がいないクラスなどがあり、これまで同期会がありませんでした。それが、昨年の湖陵ゴルフコンペの幹事を契機により、同期会結成の機運が盛り上がり、同窓会の前日に設立総会が開催で

きるところまでこぎつけました。設立総会には、地方からも多くの同期生が駆け付けてくれそうどころです。9日の同窓会総会には、前日の勢いを持ち込んで盛り上げたいと思っています。



御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811



社会に出て

古川 和美

平成十年三月卒

(湖陵五十期)

高校を卒業し、社会人として働き出して早くも4ヶ月が過ぎました。全くわからなかった仕事も少しずつ覚え、今では一通りできる様になりました。

私は進学から就職に変えてすぐ会社が決まり、他校の友達が就職先が無いと大変な思いをしています。苦勞をしていない分会社に入ってから気を抜いてしまいそうだったので、毎日気を張り、責任を持って仕事をしよう心がけています。

事務の仕事は好きなのですぐ覚えらるるだろうと思っていましたが、責任を持ち、迅速で且つ正確に仕事をするを身につけることはとても難しい事でした。自分のした小さな失敗でも、会社にとつては大きな事となってしまうので、このくらいは...という学生時代の甘い考えは会社では通用しませんでした。

私が一番苦勞した事は電話の応対です。電話の受け答えがあんなに難しいとは思っていませんでした。相手は私の声や態度で会社の

イメージを作ってしまうので、どう対応すれば良い印象を与えられるのかわかりませんでした。それと敬語等言葉遣いも学生の時とは違い驚きました。聞き取れない時はよけい焦ってしまい、失敗ばかりしていました。し最近は大分慣れ、その状況に合った対応が的確にできるようになりました。

心配していた人間関係は、仕事を納得するまで教えてくれ、助けてくれ...いい方々ばかりでとても恵まれていると思います。

高校生までは親にお金を出してもらい授業を受けていましたが、自分で働いて初めてお金を稼ぐ大変さがわかり、今まで育ててもらった事をとても感謝しています。

進学しなかった事は後悔していません。友達の話聞き「いいな」と思った事もありましたが、私は目的や夢が無く、ただ大学へ行こうと思っていました。それよりも社会に出てたくさんの事を学び、

仕事を頑張り、自分のお金で責任を持って遊び...そういう今の生活の方がとても充実していると思、就職を選んで良かったと自信を持つ

て言えます。

これからも焦らず、少しずつ一日一日を大切にし、周りに認めてもらえる社会人になりたいと思っております。

社会人1年生



社会人となつて

岡崎 佳代

平成十年三月卒

(湖陵五十期)

今、こうして社会人となりペンを執っている自分など高校時代には想像した事ありませんでした。私は、進学校であるからには進学するとう考えでしたが、自分にプラスになると思った就職を最終的に選びました。私にとってこの選択はまちがってはいなかったと思います。

入社してから今日まで、毎日が初めての事ばかりで高校生と社会人との差に戸惑うばかりですが、人間関係がとても良い会社なので思い切り仕事に取り組める環境は揃っており、失敗しながら仕事を覚えていく状態です。未だ完全に任せている仕事はありませんが、徐々に仕事も増え、自分の仕事は自分で済まなければいけないという社会人としての責任の重さを感じながら、この先一人でやって行く事に対し期待と甘えは許されないう事、主に端末に向かっている他はお客様かお店の方か上司と電話で話をしていく事が多く、特に言葉遣いは充分気をつけています。

象になりますし、接する人達全てが年上の方ばかりで、今もそうですが、初めは言葉が出てこなく黙ることもあり苦勞しました。今では大分慣れましたが、先輩方の様に早くなりたいものです。

私が考えていた社会人のイメージは、上下関係が厳しいなど、明るいものではありませんでしたが、実際は先輩方も良くしてくれまいます。これから毎日楽しい事ばかりではないでしょうが、失敗をしてもその事によって成長できる事を信じて努力して行きます。そして、将来的には一人前の社会人になりたいです。社会人になって気付いた事と言えば、新聞は毎日読むべきである事と、釧路で仕事をしているならもつと釧路について知っていないといけないという事です。未だ未だ勉強は続きませんが無理することなく地道に着実に覚えて行き、仕事上だけでなく精神的にも成長し、毎日充実した生活を送って行きたいと思、

奥田達也(釧路二期)の

誠愛勇から

田中正巳の巻

(釧路15期)



八月の同窓会総会でセレモニーが終り宴会が始まると、

「部隊長いっしょに写真を撮りましょう」と田中正巳先輩は六十歳代の後輩同期の集団にひっぱり出されて記念撮影を要請される。

そこには湖陵高生一ケタのノスタルジアもある。

敗戦直後の昭和二十一年八月、先生として後輩の前に現われた。將軍髯こそ生やしていないが、泰然とした態度と挙措はまさに部隊長そのものであった。敗戦の将などの卑屈さはみじんもなかった。敗戦の日を境に、自信を失った

教師たちが生徒の機嫌を取るなか、「我が道を行く」といわんばかりに昂然と胸を張り、「民主主義とは…多数決とは…」と新憲法を講義する田中先生。

「憲法学者」たるの気迫はその一歩からすであつた。終生変わるまい。その一貫した態度が変遷多い今の世に得がたく六十代の男たちの人望を集めるゆえんである。

仇名は部隊長だが、経歴はちがう。釧路から弘前高校、京都大学法学部と進み、大志を抱いて満州へ渡り、中堅官吏養成機関の大同

憲法を講義する田中 学長

スペイン語の大家である河村

学院で教育を受けたあと、浙江省蘭西県につとめた。副県長に次ぐ庶務課長であつた。治安工作に専念するも終戦となり母校釧路中、湖陵高の教壇に立ったのである。

二十四年の道学芸大学釧路分校の開校とともに大学入りし、三十四年に教授となつた。憲法講義をつづける釧路短期大学学長である。

その独特のしゃべり方に、学生は聞きほれる。むずかしい法律の話が、癖のある抑揚とともに耳に残る。叱られてもそれと気づく生

徒は少ない。いつもの講義の調子だからである。ひとつには喜怒哀楽をめつたにあらわさない大人(タイン)でもあるからだ。

戦時中で修学旅行のできなかった教え子が卒業後に恩師をさそつて「修学旅行」をする。田中も参加、初日の授業をかつての名調子で延々とやり、スケジュールを気にする幹事連中をばらはらせる。

二泊三日を最後までつきあう。弓道で鍛えた若々しさは恩師というより先輩の兄貴気分である。

河村 功の巻

(釧路8期)



昨年の総会にも元氣な挨拶を延々とやった東京の河村功。

在京釧路中会誌(32)で名文を読ませている。丹葉節郎との交友も「行け南米へ」の当時、懂れて、東京外語スペイン語部へ入学した。代用教員からの上京は丹葉と同じで、両親兄弟との情愛が同誌に深く語られている。

立身出世を夢みての上京は当時の青年の気概を読む者に訴える。

母方の叔父との縁があり、その病死で後嗣ぎとなるのだが「俄か仕込みや一夜漬けではだめ」との信念で語学に打ち込む情熱はなまかななものではない。

いま九十一歳での元氣の良さからみても丹葉節郎に負けない熱血漢であつたらう。

「父脳溢血で倒れた。已むを得ぬすぐ返れ」の兄よりの電報に翌日からの一学期の試験の一切を放棄して帰郷する。

そのあたりの心境は焦る心で急行列車に間にあつたとはいえ、当時は遠い遠い釧路との距離であつた。

スペイン語の大家として別冊文芸春秋にも載っていたが「東京外語スペイン語部八十年史」別巻の執筆にも見られる。

(拙著「釧路物語」に浅才にしてまったく知らないまま洩らしてしまい、この期に記させて載く)

あたたかなふれあい



太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する

セオチェーン

妹尾商店

新橋大通1丁目 ☎25-5345

新富士ストア

新富士駅前 ☎51-3467

愛国ストア

愛国西3丁目 ☎36-3399

白樺ストア

白樺台1丁目 ☎91-5423

昭園ストア

昭路北1丁目 ☎51-8853

さつぼろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック

ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023
営業時間/AM11:00~PM9:00

湖陵百年記念

(元湖陵高校教諭)
永田秀郎氏



二十一世紀は間もなくですが、湖陵百年も大正二年(一九一三)の開校ですから、平成二十四年(二〇一二)となります。西欧のことは寡聞にしてよく分かりませんが、節目としての開校百年は記念すべき年となることでしょう。

わが湖陵高校も、昭和三十七年(一九六七)の五十周年記念は盛大であったようです。この時に編纂された記念誌は見事な労作です。現在引き継がれている学校関係資

料はこの時に収集されたものと思われます。いつでも情熱こめてこういう仕事を残していく人がいるものです。平成三年(一九九二)の八十周年記念誌は写真中心で、これも貴重な資料の収集があります。この他に湖陵の歴史を語る作品として昭和五十一年四月から釧路新聞に連載した「釧路物語」ふるさと開く湖陵人脈」をあげなければなりません。これは著者奥田達也(釧路高等学校昭和二四年

同窓会館に名前を

収集した資料の展示公開も

卒)の才筆によって、まことに躍動的な物語地方史となっています。また拙著「中川久平―郷土に生きる梅楓精神―」(昭和六三年釧路新聞社)「八代斌助―晩くひと―」(平成七年春秋社)などの個人伝記もあります。

個人の一生は係累縁者によって語り継がれるのですが、学校は人格をもちませんから、よほど根性をすえて資料集めしておかないと、特に昨今のように使い捨て時

代には貴重なものが散逸してしまうこととなります。

湖陵高校は昭和二十八年に校舎を焼失して創立以来の資料の大部分を失ったと聞いていますが、それにしてもその後同窓生を通じて収集した資料の量は驚くほどです。これらが新しくできた同窓会館に展示されるのを心待ちしている方々も多い事だと思えます。そ

れにあわせて同窓生の著作をおさめた「湖陵文庫」の移設、開架も考えられるでしょう。

仏造つて魂入れずの譬えではありませんが、せつかくの建造物がランドウでは貴重な財産



完成した同窓会館全景

が眠ったままとなってしまう。同窓生へばかりでなく在校生にも自分の学校の歴史に目を向けてもらうように学校史にかかわる資料を整理して公開すべきでしょう。かつて「名門湖陵」を嘯いていたひともしましたが湖陵の本當のよい伝統を知らないひとの空念仏で

釧路のおみやげに！

しあわせをお菓子にのせて



蝦夷手焼
せんべい

熊ささ



釧路市南大通2 ☎代41-2121

あつたとしか言いようがありません。

人は子供が生まれたらまず名前を付けます。ヘレン・ケラーは「も

のには名前がある」ことを認識したとき人間となったのです。

この同窓会館に、みんなが誕生を祝って名前を付けてやらなくては

あまりにもかわいそうです。

そして関係者ばかりではなくひろく市民にもこの会館を利用して

もらおうという人の交流の中から、

会館利用の新たな構想が生まれてくるでしょう。百年記念はまだま

だ先と違っていられないことが実感

感できると思います。そういうこ

とのためのサロンとなったら、ど

んなにすばらしいことでしょう。

国会図書館には、全国の出版物

が収集保管されています。最近はその膨大な出版点数に音を上げて

マイクロ・フィルム化して対応して

います。湖陵の資料も何点かここ

に保管されていますが、今でも

あるいはこれからも手にする人が

何人いることでしょう。しかし、

将来にわたって誰が一人の利用者

のために保管されつづけていく時

間を思うのです。同じように同窓

会館に保管される資料が将来にわ

たって活用されることを期待しつ

づける寡黙な営みの意味に思いを

致したいのです。

趣意書

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。私ども母校は、大正二年の創立以来創中、創高、湖陵と八十余年の年輪を刻み幾多の試練を乗り越え発展を続け、今日に至りました。その間約二万六千名の卒業生は、金道はもちろん金

目で有為な人材として活躍しております。さて、母校の校舎改築や八十周年記念式典も終え、この度永年の願望であった同窓会館（仮称）の建設に向けて、いよいよ募金活動を開始する運びとなりました。

この同窓会館は、創立以来の貴重な記録、資料、同窓生の芸術品を保存、展示すると同時に、在校生の部活動並びに同窓生やPTAの各種会合等に提供し、伝統ある諸活動が一層充実され有為な人材育成とともに、貴重な芸術品に直接触れることにより情操教育の一助にも寄与するものと考えております。

何卒、この趣旨にご理解いただき本事業達成のため絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、皆様のご協力により完成した同窓会館は、より一層の活用を願う完成後直ちに北海道（北海道釧路湖陵高等学校）へ寄附することといたします。

平成八年一月吉日

- 北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会
- 協賛会会長（全日制同窓会会長）久本 南（湖陵7期）
- 協賛会副会長（全日制同窓会副会長）遠藤 隆吉（湖陵4期）
- 同（全日制同窓会副会長）北原 正彦（湖陵10期）
- 同（全日制同窓会副会長）原 森 戸（湖陵7期）
- 同（定時制同窓会事務局長）河原 栄 栄（湖陵6期）
- 同（湖陵同窓会東京支部長）栗村 英 二（湖陵1期）
- 同（湖陵同窓会札幌支部長）栗林 正 明（湖陵13期）
- 同（湖陵同窓会十勝支部長）河崎 弘（湖陵1期）

幸三 ゴルフショップ

新橋大通 5 - 1

代表 宮本英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——

■記念誌・チラシ・伝票類・各種一般、カラー印刷

刷 野 印 刷 齊

☎085-0816 釧路市貝塚4丁目8番4号 TEL 46-1026

事務局だより

同窓会会員の皆様におかれましては毎日ご健勝にてご活躍のこととご拝察申し上げます。

また、常日頃から同窓会に対するご指導、ご協力を賜わり衷心より厚くお礼申し上げます。近年釧路地方では、八月が近づいてくるにもかかわらず、日中の最高気温が二十度にも満たない状態であり、一方、東海地方を中心に西日本では、常に三十度前後というこのような気温差があるのはどう云うことなのかと思わず考え込まずにはいられない今日此の頃の気候でございます。

さて、月日の経つのは非常に早いもので、この八月九日（第二日曜日）に例年通り平成十年度の釧中・湖陵の同窓会が開催されます。本年もこの総会にさけて、湖陵十六期を中心に二十六期、三十六期の当番期の方々が準備に余念がありません。ほんとうに毎年のことながら当番期の皆様の熱意にはほんとうに頭が下がる思いですし、役員一同感謝の気持ちでいっぱいでございます。本年も素晴らしい思い出多い同窓会になることを期待致しております。

話は変わりますが、同窓会館建設資金に対する募金を続けております。皆様すでにご存知のとおり非常に苦戦をしております。誠に心苦しい限りですが、どうか皆様のご理解とご協力のもとひとえにお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健康をお祈り申し上げ、事務局からの便りとさせていただきます。



北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設資金の募金協力をお願い



皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて私ども協賛会の念願でありました同窓会館が建設の運びとなり、九月末の完成を目指して募金のご協力をお願いしているところでございます。我々同窓生は勿論のこと在校生、そして今後湖陵高校で学ばれる後輩の皆様にも大いに活用していただくための会館でございます。湖陵の伝統にふさわしい会館をと念じておりますので、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年7月2日
北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会会長 久本 甫
実行委員長 鈴木 豊 祐

●寄付金の払込(取扱金融期間及び口座番号・口座名義)

- 1) 富士銀行 釧路支店 口座番号 普通預金 1501882
- 2) 北海道拓殖銀行 釧路支店 口座番号 普通預金 3434782
- 3) 釧路信用金庫 本店 口座番号 普通預金 1103412
- 4) 小樽貯金事務センター(郵便振替口座)

口座番号 02760-8-28524

加入者名/北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会

お問い合わせ/☎23-5151(内線6520)(関口)

『ご注意 期によっては独自にまとめている場合がありますのでお確かめください。』

編集後期

これまでBサイズだった「くまざさ」を、今号からひとまわり大きいAサイズにいたしました。

大きければ良いという訳ではありませんが、文字の見易さとともに少しでも多くの記事を掲載できるようにとの考えです。

さて、今回も同窓会館関係のご寄稿をいただき掲載させていただきました。現在、さまざま意見が飛び交う中、少しづつではあります着実に会館への寄付は集まっております。立派に出来上がった建物、ようやく本来の意味で私たち同窓生のものになり始めています。今後とも一層のご協力とご理解をお願いいたします。

編集委員会では、これからも同窓会館に関する記事を掲載していく予定でございます。どんなことでも結構です、皆様のご寄稿をお願いいたします。

(石川記)

くまざさ編集委員会

同窓会会長 久本 甫
同窓会幹事長 関口 政司
編集委員長 上岡 信明
編集委員 奥田 達也
石川 和男